

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ささゆり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	瑞浪市
記入者名 (管理者)	可知 ひとみ(管理者) 成瀬 一郎(運営者)
記入日	平成 19 年 7 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前の理念から地域密着型に即した理念「われは人なり。瑞浪市民なり。」に変えた。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を職員が常に見える所に掲示し、理念の実現に取り組んでいる。瑞浪市民の権利として、公共施設を積極的に利用している。	ややもすると、馴れ合いになりがちな介護であるが、人生の先輩に対する態度で日々接している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等により、地域代表者に説明している。又、家族には契約時や折にふれて説明し理解を得ている。瑞浪市民の権利として、公共施設を積極的に利用している。近隣の方々全員には説明していない。	介護に関心のある地域の方々から理念の浸透を図って行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中、畑で作業中の近所の方と挨拶したり、すれ違う人と話をしたりする。また、近隣の方から収穫した野菜を頂いたりする。	頂くばかりではなく、ささゆりの畑で採れた野菜をお返しして交流を深めて行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	どんど焼き、夏祭り、福祉祭等参加が許可されている行事や独居の高齢者が集ういきいきサロンには積極的に参加し、秋祭りの神輿の休憩所としても利用されている。また、公園の草取り奉仕にも、参加している。	気軽に介護の相談を受け、情報を発信して行く地域の拠点になりたいが、具体的に何から手掛けるか研究中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が「いきいきサロン」に呼ばれて、高齢者の為の機能訓練体操や脳トレを実施している。この地区の連合区長に、高齢者の生活で困っていることがあれば、出来ることはしますので相談して下さいと言っている。		地域には、独居老人の集うサロンがそれぞれあるので、それぞれのサロンからボランティアとして職員の招集が来るのを、何時でも協力できる態勢で待っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者で改善方法を検討し、スタッフ会議でその方法を職員に分かりやすく伝え、質の確保・向上につなげている。		職員の育成計画に自己評価を組み込めないか検討している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題に「評価」を取り上げましたが、評価と改善状況の報告だけで、話し合いの段階まで行けませんでした。改善方法は了承していただけたものと理解しました。		運営推進会議の参加者にささゆりの現状と、評価の意義を知ってもらうように取り組んで行く。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢介護課の担当者との情報交換は非常にうまく行っており、腹の探り合いなど全くなく、単刀直入で通じ合う。制度上の分からないことを担当者に聞けば、責任を持って答えて頂ける。		担当者が代わっても、信頼関係は維持したい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者が成年後見制度を利用している。権利擁護、成年後見制度の研修に職員と運営者が参加している。		入居者に有利な制度の情報を得て、利用したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を職員1名と運営者が受講している。入浴や更衣時に身体観察をし、虐待の有無を確認している。言葉による虐待が稀にある。		人生の先輩である入居者にそれなりの言葉使いをしない場合ささゆりでは虐待にあたる事を職員に周知させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書を読みながら説明している。不安や疑問にその都度答えている。また、後日出てくる疑問にも答え、理解・納得を得るように心がけている。解約時にも、安心して頂けるようにアフターフォローを約束している。</p>	<p>契約内容を忘れて問題を起こされたことがあり、再度説明したことがある。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情相談箱を設置しているが、相談件数は稀である。職員は利用者の発する言葉の意味を理解し、即座に問題解決に向けて行動を開始している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月入居者の暮らしぶりや職員の異動については便りで定期的に知らせている。その際、預かり金の収支報告もしている。健康状態の異変は、そのつど電話連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情相談箱を設置しているが、相談件数は稀である。意見、不満、苦情を入居者と家族の声として捉え、時々運営者が家族の声を聞く「雑談会」を開いている。そしてその声は、運営に反映されている。</p>	<p>雑談会の開催頻度を多くまたは定期的にしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議で職員から運営に関する意見や提案が出され、反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>運営者夫妻が、柔軟に対応できるように時間を空けている。傾聴が長時間にわたる時もあり、無くなったものを一緒に探したり、通院支援をしたりしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者を出さないようにしているが、馴染みの関係ができた職員が離職した場合、入居者へのダメージを最小限にする為コミュニケーションを多く取り、今迄のケアが継続するよう努めている。</p>	<p>継続して取り組んで行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が地域密着型サービスの従事者としての質を向上するために研修や講習を受けることが必要ことを運営者は理解している。職員が研修会等に参加した場合、「研修会報告書」を作成し、内容を全職員が共有できるようにしている。またスタッフ会議で話し合う中で、それぞれ学ぶことが多い。		介護福祉士の資格に挑戦している職員がいるが、支援していく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の職員同士が個人的に交流している。運営者同士では合同勉強会や職員の交換研修の話はできているが、いつから始めるかの日程が決まっていない。		計画が具体化するよう運営者同士で話し合いを進めて、双方の質の向上を図りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間事務室にいれば、短時間ではあるが仕事から離れることができストレスを軽減できる。職員同士気兼ねなく話し合えるお食事会が年2回あり、ストレス解消に役立っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は向上心を持つことがサービスの質を上げ、入居者により良いケアを提供できることを熟知している。運営者は職員の状況を把握し、一人ひとりの得意分野を伸ばしたり、仕事に意欲を持てるようなアドバイスをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人面接があり、要望等を時間をかけて聴き、不安の解消に努めているが、入居後1週間は帰宅願望が強く出る。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族は、困って入居を決心される訳ですから、どんな点で困ってみえるか、どんなことが不安なのか、どうして欲しいかをよく聞き、それぞれ説明して納得されることにより信頼関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、グループホームのサービスでは対応できない場合、他のサービス事業所の情報を提供しますが、ほとんどの場合ケアマネを介して相談にみえてますので、他のサービスの利用を調整したことはありません。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前本人に見学してもらい、1日の過ごし方を家族を交えて相談を受けながらイメージしてもらおう。人によっては、イメージの段階まで行けない方もみえます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者や職員の話で一緒に笑い、一緒に悲しんだり怒ったりして1日を過ごしています。人生の先輩から学ぶことは多く、職員の成長に役立っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を月1回の便りや電話、面会時にお知らせし、家族がグループホームに介護を任せっきりにならないように取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になっている家族は、その原因を明らかにしより良い関係に向けて支援して行くが、親戚が義理で家族の代わりをしている場合は、現在の関係を維持して必要以上に負担が掛からぬように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい環境づくりをしています。また、本人が希望される場所へ一緒に車で行ったりします。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	介護度の低い方が重い方の世話を焼いて、支え合ってみえます。また関係を拒否し一人孤立している方には信頼関係を築いた職員がその方のところに寄り添う支援を続けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後でも移られた病院や施設へ職員と馴染みの入居者で様子を見に行き、関係を断ち切らないようにしている。また新たに課題を発見した場合、担当のケアマネに報告するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を意思表示される場合は、それに沿って支援しますが、思いや希望の把握が困難であったり不確かな場合は「自分だったら」「自分の親だったら」どうされたいかを職員間で検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、その人のこれまでの暮らしについて話題にし把握に努めている。把握できたことをセンター方式のシートに記入しケアプランに役立てている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録を記入しながら、本人が出来ること、分かることを確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画原案を計画作成担当者が立て、本人、家族、職員の意見や気づきを反映させて新たに介護計画を作成している。意見や気づきが提案されず、原案がそのまま介護計画になることも多い。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は見直し修正し、現状に合った計画にしている。本人家族を交えてケアカンファレンスを開催するが、積極的に意見を述べられる方は少なく「お任せします」と言われる方が多い。		形式的なケアカンファレンスになっているので、本人や家族との世間話の中で課題を探り、目標を決めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し状態の変化が一目瞭然に分かり職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直し時の参考にしている。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に変化する入居者や家族の状況や意向に、運営者夫妻が中心になって対応している。外出・外泊の支援、通院サービス、機能訓練指導等の柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	不定期に演芸ボランティアを楽しんでいます。消防には救急救命法を指導していただいています。		ボランティア活動を積極的に受け入れる体制づくりの最中です。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスの事業所と契約し、利用できる態勢にありますが、今迄に利用を希望された入居者はありませんでした。他のケアマネとも介護保険以外のサービスの情報を交換しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者も忙しくて、運営推進会議に参加を依頼するが、欠席される。しかし、解決できない困難な問題を相談しに行ったり、その後の結果報告もしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の都合でかかりつけ医を変えることはなく、継続的な医療が受けられるよう通院支援をし、医師の注意事項を聞くなどしながらかかりつけ医と信頼関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時医師には認知症の周辺症状の対応について相談しているが、投薬はなされず現在のところケアで対応できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師・準看護師の資格を有する職員2名が、入居者の健康管理や医療的な支援を行っています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は大きなダメージをもたらしますので、1週間後にお見舞いに行き、医療機関と情報交換し早期退院に向けての必要な支援をしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向は大多数が「お任せします」であるが、その場になると意向が変わる可能性があるため、何度も話し合いが必要になる。今迄看取りの希望はなく、終末期は医療機関に搬送してきた。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心と安全を確保しながら、QOLを維持して事業所が対応可能なこと、困難なことを話し合っている。またそうした場合には家族や医師と連携しながら支援をして行く。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことのダメージを最小限する為、健康状態、ADL、ケアの方法等を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として入居者一人ひとりを尊敬し、プライバシー保護についても注意をはらっている。親しみのある言葉が時として、プライドを損ねる慣れ合いの言葉になっていることがある。</p>	<p>常に尊敬のこころを持って、言葉を発していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の発するサインを見逃さないようにしたり、自己決定の選択肢を2つに絞って決定しやすくしています。一方的に説明せず、納得して頂くことに重点を置いています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間、食事時間、入浴時間、就寝時間等日々の暮らしの一応のスケジュールはありますが、これに固執しません。朝寝したい人にはそうしてもらい、朝食は温め直して提供します。軸足は常に入居者側に置いています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容を希望者が利用し、馴染みのお店を希望される方は希望通り支援しています。またおしゃれをされた場合「きれいですね」と褒めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食材、季節料理で毎日の食事に変化をつけて楽しみになるように工夫している。また食前に料理の説明をする職員もいる。その日意欲のある入居者が、献立作り、買い物、調理、食事、配膳、後片付けを職員と一緒にやっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みのお菓子を近所の食料品店で購入し入居者同士で分け合って食べてみえます。また入居者が希望される品を職員が購入する場合があります。お酒やタバコを嗜む方はみえません。</p>	<p>現在のところみえませんが、お酒やタバコを好まれる方に対しては他の入居者に迷惑がかからないように配慮します。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗されても傷付かれないように支援している。おむつを外せるような方向に支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、昼間の入浴になっているが希望に合わせて柔軟に対応している。個々に入浴希望時間をお聞きしているが、夜間を希望され入浴した例はない。		一人ひとりの意向に沿い楽しんで入浴できるよう支援します。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、自由に過ごされるよう環境を整え支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の力に合った生活上の役割を果たすことにより、生きがいを感じて日々過ごされています。絵を描いたり、はり絵をしたり、畑仕事に楽しみを見出され、散歩や外出で気晴らしをしてみえます。喜びや楽しみを見出せない人に対して、職員は話しかけるようにしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の希望や力に応じて金銭管理されています。全くできない方もみえます。金銭出納帳は事業所で管理しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外は希望者が散歩や買い物に出られます。また、近くの公園の藤棚の下で、ゆっくりした時間を過ごされます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望される方で花見、ふるさと巡り、桜堂見学、バーデンパークの足湯、お墓参り等に出かけている。		今年の秋に家族と共に紅葉狩りを企画している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援はしているが、何度も早朝に電話された為、相手から苦情がきたので、何故早朝に電話しなければならぬかを聞き、苦情解決に向けて対応した。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どの家庭でもされているように、快く迎え入れ、居心地よく過ごせるような配慮をし、再訪問につなげています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は「身体拘束廃止推進員養成研修」に参加しており、身体拘束は人権侵害であるとして普段から防止に取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、日中玄関に鍵をかけたこともありません。職員の目が行き届いています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はプライバシーに配慮しながら、夜間2時間おきの巡視をし、トイレや入浴が自立している方でも見守りや確認をして安全に気を付けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在の入居者の状態では危険物を排除する必要はないが、念の為包丁だけは見えないところに保管してある。また、職員は常に入居者を見守り、安全確認をして危険を防いでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な入居者が歩行し始めた時、すぐ職員が付き、誤嚥防止のための嚥下体操を毎日している。ヒヤリハットや事故報告書に記入し、事故情報を共有して再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が訓練を行っている訳ではないが、職員に看護師・準看護師が含まれているので、健康状態の急変や事故発生には対応できる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所は10m先の公園。運営推進会議の場で地域の代表者である連合区長に災害時の協力を呼びかけた。日頃から地域の人々と親密にしているので、協力が得られるものと確信している。		前回の避難訓練から時間が経過しているため、早急に訓練を繰り返す必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の一人に心疾患があり、最悪の状況を想定しどのように暮らして行くか家族と話し合ったことがある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックをし異変は職員間ですぐ共有できる。チームへの連絡体制も整っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	準看護師でもある管理者が薬の管理をし、職員が服薬支援をしている。症状の経過や変化を医師に知らせ、処方を変えてもらうこともあった。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために、食物繊維の多い野菜を食材に使ったり、水分量をチェックしたり、体操や散歩を日課にしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの見守り、介助、チェックをしている。隔週で歯科衛生士による口腔ケアを受けている入居者もみえます。歯科衛生士の口腔ケアを全入居者に実施したいが、家族の同意が得られていない。		歯科衛生士の口腔ケアを今後も本人・家族に勧めて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態、摂取方法で支援し、食べる量と飲水量は介護記録に記入し、職員の共有情報となる。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。2006年ノロウイルス流行時、行政からの情報提供もあり薬剤師による講習会を開いて、手洗いと次亜塩素酸ナトリウム消毒を実施した。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用し、職員の手洗い、台所と調理用具を清潔で衛生的に保ち、食中毒発生の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前を花壇で飾り、感じの良い印象を与えています。		建物周囲の草取り。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けていると気持ちの良い風が通り、ついうとうととしてしまいます。テーブルの上には野の花が飾ってあり、さりげなく季節感をかもし出しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共用スペースではあるが、自分だけの世界に浸っている方もあれば、ソファーに座ってお喋りに興じている方もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今使う物、最小限の生活必需品しか持ち込んでみえないのは、いずれ家に帰るとい願望でしょうか。少ない中にも夫の写真、テレビ、本を置いている方もあります。どれもその方が居心地よく過ごすための工夫です。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの換気扇は常に回して換気をしている。全室空調完備。共用空間は、高窓を開けて換気をしている。光触媒の防臭対策の工事もしてある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の動線上には手すりがあり、玄関にスロープが設置してあるので、安全に移動できる。雨の日には、ルームガーデンを通り洗濯物を干しています。物干し竿の高さは、入居者の目の高さになっています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の目の高さに個々の居室、トイレ、浴室、洗面所等の標識が掲示してある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには花壇や畑があり、気の向いた時に手入れしている。サンルームでははり絵をしたり、お喋りをして楽しんでも見える。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・機能訓練指導員が筋力低下を防止し、残存機能の維持に努めています。
- ・G.H.内におとなしいトイブドルが居て入居者のこころを癒し、免疫力向上に効果があり高齢者の健康維持に役立っています。
- ・入居者のこころに寄り添う介護に取り組んでいます。